【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成24年4月26日(2012.4.26)

【公開番号】特開2010-212901(P2010-212901A)
【公開日】平成22年9月24日(2010.9.24)
【年通号数】公開・登録公報2010-038
【出願番号】特願2009-55597(P2009-55597)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/76　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/93　(2006.01)
Ｇ０６Ｆ　3/048　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/76　Ａ
Ｈ０４Ｎ　5/93　Ｚ
Ｇ０６Ｆ　3/048　６５１Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成24年3月8日(2012.3.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
画像データ又は音声データを再生対象データとして再生する再生手段と、
前記再生対象データの再生位置の移動を行うため、ポインティングデバイスへの円弧状の操作軌跡を判別する判別手段と、
前記判別手段で前記ポインティングデバイスへの円弧状の操作を判別した場合、その円弧の大きさに応じて、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を異ならせる処理手段とを備えたことを特徴とする再生装置。
【請求項２】
前記円弧の半径を求める算出手段を備えたことを特徴とする請求項１に記載の再生装置。
【請求項３】
前記円弧の半径が、第１の半径よりも大きい第２の半径のとき、前記所定の操作量に対する再生位置の移動量は、前記第１の半径のときの移動量よりも小さいことを特徴とする請求項２に記載の再生装置。
【請求項４】
前記算出手段は、前記ポインティングデバイスへの操作軌跡から、少なくとも３つ以上の入力座標の情報に基づいて前記円弧の半径を求めることを特徴とする請求項２または３に記載の再生装置。
【請求項５】
前記ポインティングデバイスによる円弧状の操作の回転方向が右回りの場合に送り処理を行い、左回りの場合に戻し処理を行うことを特徴とする請求項１乃至４のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項６】
前記ポインティングデバイスによる円弧状の操作の開始時における回転方向を送り方向とすることを特徴とする請求項１乃至４のいずれか１項に記載の再生装置。

【請求項７】
前記円弧の大きさが所定の大きさより小さい場合、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を円弧の大きさによらず一定とすることを特徴とする請求項１乃至６のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項８】
前記円弧の大きさが所定の大きさより大きい場合、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を円弧の大きさによらず一定とすることを特徴とする請求項１乃至６のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項９】
前記再生対象データは一連の動画データ又は一連の音声データであり、
前記円弧の大きさに応じて、前記ポインティングデバイスの操作量に対する時間経過量を異ならせることを特徴とする請求項１乃至８のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項１０】
前記再生対象データは一連の動画データ又は複数枚の静止画データであり、
前記円弧の大きさに応じて、前記ポインティングデバイスの操作量に対するフレーム又は静止画の移動枚数を異ならせることを特徴とする請求項１乃至８のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項１１】
前記再生対象データは複数の音声データ又は複数枚の静止画データであり、
前記ポインティングデバイスに利用されるディスプレイには、前記複数の音声データ又は複数枚の静止画データのそれぞれに対応付けられたアイコンが表示され、
前記円弧の大きさに応じて、前記ポインティングデバイスの操作量に対するアイコンの移動数を異ならせることを特徴とする請求項１乃至８のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項１２】
前記再生対象データは一連の動画データ又は複数枚の静止画データであり、
前記ポインティングデバイスは、前記動画データ又は前記静止画データが表示されている画面上への操作を受け付けることを特徴とする請求項１乃至１１のいずれか１項に記載の再生装置。
【請求項１３】
画像データ又は音声データを再生対象データとして再生する再生手段と、
前記再生対象データの再生位置の移動を行うため、ポインティングデバイスへの円弧状の操作軌跡を判別する判別手段と、
前記判別手段で前記ポインティングデバイスへの円弧状の操作を判別した場合、その円弧の大きさに応じて、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を異ならせる処理手段とを備えたことを特徴とする再生システム。
【請求項１４】
再生装置が画像データ又は音声データを再生対象データとして再生する再生方法であって、
前記再生対象データの再生位置の移動を行うため、ポインティングデバイスへの円弧状の操作軌跡を判別するステップと、
前記ポインティングデバイスへの円弧状の操作を判別した場合、その円弧の大きさに応じて、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を異ならせるステップとを有することを特徴とする再生方法。
【請求項１５】
画像データ又は音声データを再生対象データとして再生する処理をコンピュータに実行させるためのプログラムであって、
前記再生対象データの再生位置の移動を行うため、ポインティングデバイスへの円弧状の操作軌跡を判別する処理と、
前記ポインティングデバイスへの円弧状の操作を判別した場合、その円弧の大きさに応じて、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を異

ならせる処理とをコンピュータに実行させるためのプログラム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
本発明の再生装置は、画像データ又は音声データを再生対象データとして再生する再生手段と、前記再生対象データの再生位置の移動を行うため、ポインティングデバイスへの円弧状の操作軌跡を判別する判別手段と、前記判別手段で前記ポインティングデバイスへの円弧状の操作を判別した場合、その円弧の大きさに応じて、前記操作軌跡の所定の操作量に対する前記再生対象データの再生位置の移動量を異ならせる処理手段とを備えたことを特徴とする。